

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成17年10月13日(2005.10.13)

【公開番号】特開2000-37390(P2000-37390A)

【公開日】平成12年2月8日(2000.2.8)

【出願番号】特願平10-206314

【国際特許分類第7版】

A 6 1 B 17/06

A 6 1 B 18/12

【F I】

A 6 1 B 17/06 3 3 0

A 6 1 B 17/39

【手続補正書】

【提出日】平成17年6月7日(2005.6.7)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

体腔内を観察するための観察手段を備えた内視鏡と、

体腔内の生体組織を縫合するための縫合糸を備えた縫合針と、

前記縫合針を把持する把持部を備えるとともに、前記内視鏡の観察下で前記縫合針の把持操作するための操作部を備えた把持鉗子と、

前記把持部によって把持された前記縫合針に物理エネルギーを供給するエネルギー供給手段と、

を具備することを特徴とする内視鏡治療装置。

【請求項2】

体腔内を観察するための所定の視野範囲を有する観察手段を備えた内視鏡と、

体腔内の生体組織を縫合するための縫合糸を備えた縫合針と、

前記縫合針を把持する第1の把持部を備えるとともに、前記内視鏡の観察下で前記縫合針の把持操作するための第1の操作部を備えた第1の把持鉗子と、

前記縫合針を把持する第2の把持部を備えるとともに、前記内視鏡の観察下で前記縫合針の把持操作するための第2の操作部を備えた第2の把持鉗子と、

前記第1の把持部を前記視野範囲内に案内するとともに、前記視野範囲内で前記第1の把持部を移動させる第1の湾曲部を備えた前記第1の案内具と、

前記第2の把持部を前記視野範囲内に案内するとともに、前記視野範囲内で前記第2の把持部を移動させる第2の湾曲部を備えた前記第2の案内具と、

前記第1の把持部もしくは前記第2の把持部によって把持されるとともに前記第1の案内具および前記第2の案内具によって前記視野範囲内を移動する前記縫合針に物理エネルギーを供給するために、前記第1の把持鉗子および前記第2の把持鉗子に接続されたエネルギー供給手段と、

を具備することを特徴とする内視鏡治療装置。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 5

【補正方法】変更

**【補正の内容】****【0005】****(発明の目的)**

本発明は、内視鏡と把持鉗子を組み合わせて体腔内の生体組織を縫合する内視鏡治療装置にあって、体腔内の生体組織の縫合を容易かつ確実に行えるようにした内視鏡治療装置を提供することを目的とする。

**【手続補正3】****【補正対象書類名】明細書****【補正対象項目名】0006****【補正方法】変更****【補正の内容】****【0006】****【課題を解決するための手段】**

請求項1に係る発明は、体腔内を観察するための観察手段を備えた内視鏡と、体腔内の生体組織を縫合するための縫合糸を備えた縫合針と、前記縫合針を把持する把持部を備えるとともに、前記内視鏡の観察下で前記縫合針の把持操作するための操作部を備えた把持鉗子と、前記把持部によって把持された前記縫合針に物理エネルギーを供給するエネルギー供給手段と、を具備することを特徴とする内視鏡治療装置である。

また、請求項2に係る発明は、体腔内を観察するための所定の視野範囲を有する観察手段を備えた内視鏡と、体腔内の生体組織を縫合するための縫合糸を備えた縫合針と、前記縫合針を把持する第1の把持部を備えるとともに、前記内視鏡の観察下で前記縫合針の把持操作するための第1の操作部を備えた第1の把持鉗子と、前記縫合針を把持する第2の把持部を備えるとともに、前記内視鏡の観察下で前記縫合針の把持操作するための第2の操作部を備えた第2の把持鉗子と、前記第1の把持部を前記視野範囲内に案内するとともに、前記視野範囲内で前記第1の把持部を移動させる第1の湾曲部を備えた前記第1の案内具と、前記第2の把持部を前記視野範囲内に案内するとともに、前記視野範囲内で前記第2の把持部を移動させる第2の湾曲部を備えた前記第2の案内具と、前記第1の把持部もしくは前記第2の把持部によって把持されるとともに前記第1の案内具および前記第2の案内具によって前記視野範囲内を移動する前記縫合針に物理エネルギーを供給するため、前記第1の把持鉗子および前記第2の把持鉗子に接続されたエネルギー供給手段とを具備することを特徴とする内視鏡治療装置である。

**【手続補正4】****【補正対象書類名】明細書****【補正対象項目名】0063****【補正方法】変更****【補正の内容】****【0063】****【発明の効果】**

以上説明したように、本発明によれば、内視鏡と把持鉗子を組み合わせて体腔内の生体組織を縫合する場合に体腔内の生体組織の縫合を容易かつ確実に行える。